

名古屋市配偶者からの暴力（DV）被害者及び困難な問題を抱える女性に関する調査報告書【概要版】

I アンケート調査.....	1
II インターネット調査.....	13
III その他.....	19

I アンケート調査

1 アンケート調査の概要

1) 調査の目的

名古屋市地域におけるDV被害者及び様々な状況の女性の暮らし向きや困りごとなどの現状と課題・ニーズを把握するために、支援を受けたことがあるDV被害者及び困難な問題を抱える女性に対してアンケート調査を実施しました。

また、支援関係機関等から見たDV被害者等の現状と課題・ニーズを把握するとともに、支援上の課題やニーズをあわせて把握するために、支援関係機関等に対してもアンケート調査を実施しました。

2) 調査対象及び調査方法

調査対象	名古屋市域でDV被害者又は困難な問題を抱える女性への支援を行う支援関係機関等の支援を受けたことがあり、現在はDVのある環境から離れているなど危険性のない状況にいるDV被害者	名古屋市域でDV被害者又は困難な問題を抱える女性への支援を行う支援関係機関等の支援を受けたことがある困難な問題を抱える女性	名古屋市域でDV被害者又は困難な問題を抱える女性への支援を行う支援関係機関等
調査期間	令和6年8月30日 ～令和6年10月31日	令和6年8月30日 ～令和6年10月31日	令和6年8月30日 ～令和6年12月16日
調査方法	支援関係機関等からの直接配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式	支援関係機関等からの直接配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式	電子ファイル配付、回収は電子ファイル回答方式
配慮事項	調査対象者には調査目的と個人情報の取り扱い、留意事項について紙面上で説明した。支援関係機関等には対象者の選定や調査の影響について紙面上で説明したうえで配布を依頼した。		

3) 調査票の回収状況

種別	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
DV被害者	141*	48	48	34.0%
困難な問題を抱える女性	438*	61	61	13.9%
支援関係機関等	221	141	141	63.8%

*：支援関係機関等へ配布した調査票総数

4) 用語の説明

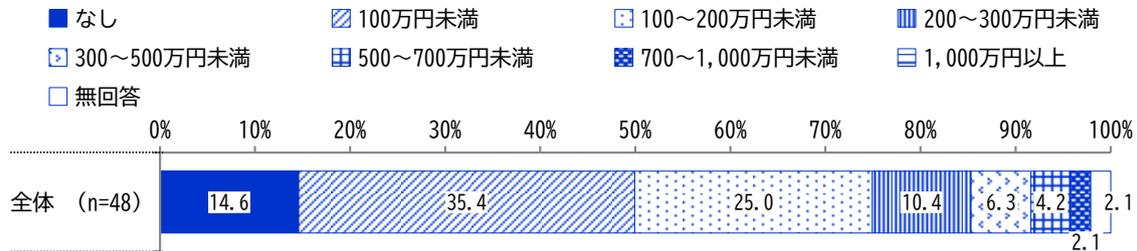
用語	内容
配偶者からの暴力 DV	配偶者（事実婚や別居中の夫婦、生活の本拠をともにする交際相手、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手、生活の本拠をともにすることを解消した相手）も含まれます。）からの暴力をいい、身体的暴力だけでなく、精神的暴力、性的暴力等も含まれます。DVは、Domestic Violenceの略。
相手方	配偶者からの暴力（DV）に関する設問等において配偶者等に暴力を振るった相手のことをいい、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、生活の本拠をともにする交際相手、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手、生活の本拠をともにすることを解消した相手）も含まれます。
困難な問題	女性であることにより直面しやすい問題をいい、DV・ストーカー被害、家族・親族等からの虐待、性犯罪・性暴力被害、予期せぬ妊娠、不安定な就労状況、経済的困窮等が挙げられます。
特定妊婦	出産後の養育について、出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦のことを指します。

2 アンケート調査結果

現在の年収

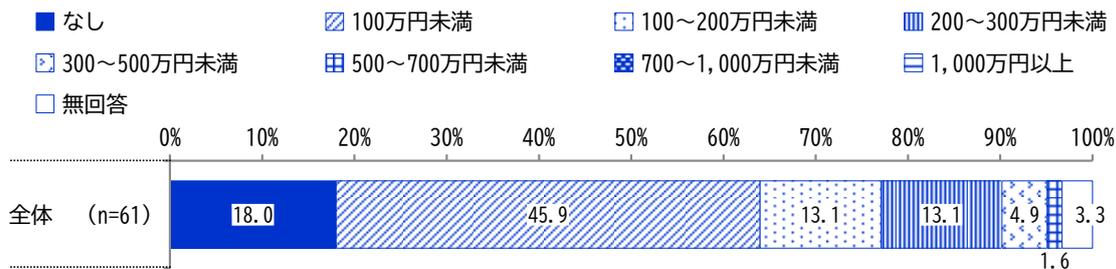
【DV被害者】（報告書9ページ 問5）

ご自身の今の年収について聞いたところ、「100万円未満」が17人（35.4%）で最も多く、次いで「100～200万円未満」が12人（25.0%）、「なし」が7人（14.6%）となっています。



【困難な問題を抱える女性】（報告書33ページ 問7）

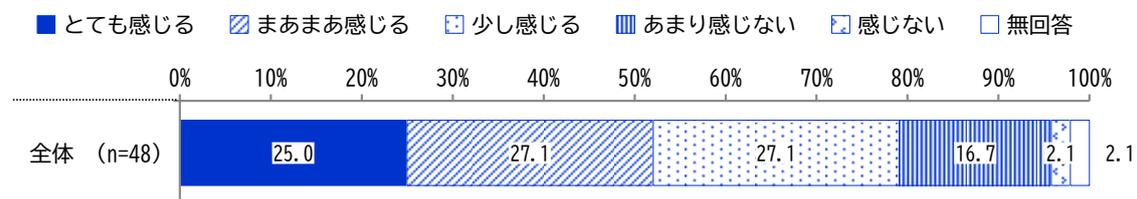
ご自身の今の年収について聞いたところ、「100万円未満」が28人（45.9%）で最も多く、次いで「なし」が11人（18.0%）、「100～200万円未満」「200～300万円未満」がともに8人（13.1%）となっています。



現在のストレスや生きづらさ

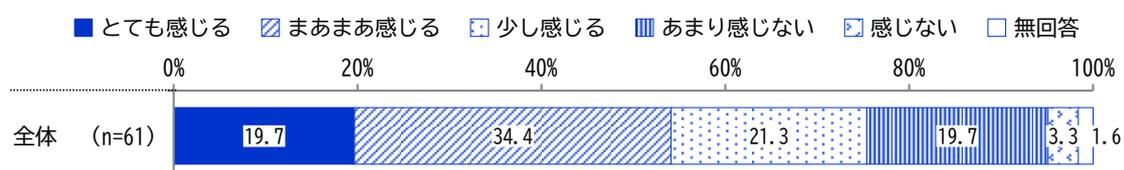
【DV被害者】（報告書12ページ 問9）

現在のストレスや生きづらさについて聞いたところ、「まあまあ感じる」「少し感じる」がともに13人（27.1%）で最も多く、次いで「とても感じる」が12人（25.0%）、「あまり感じない」が8人（16.7%）となっています。



【困難な問題を抱える女性】（報告書36ページ 問11）

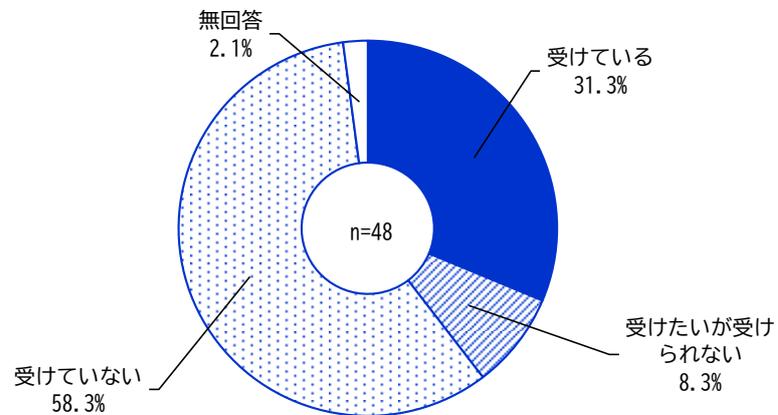
現在のストレスや生きづらさについて聞いたところ、「まあまあ感じる」が21人（34.4%）で最も多く、次いで「少し感じる」が13人（21.3%）、「とても感じる」「あまり感じない」がともに12人（19.7%）となっています。



現在の心理的ケア（カウンセリングなど）の受診状況

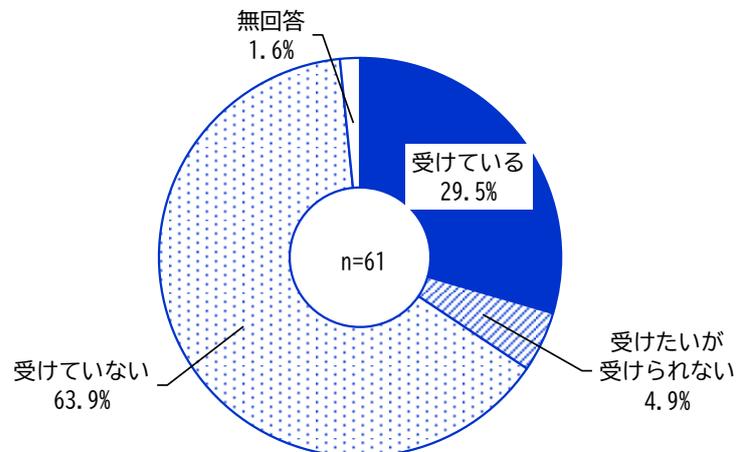
【DV被害者】（報告書 12 ページ 問 10）

現在、心理的ケア（カウンセリングなど）を受けているかについて聞いたところ、「受けていない」が28人（58.3%）、「受けている」が15人（31.3%）となっています。



【困難な問題を抱える女性】（報告書 37 ページ 問 13）

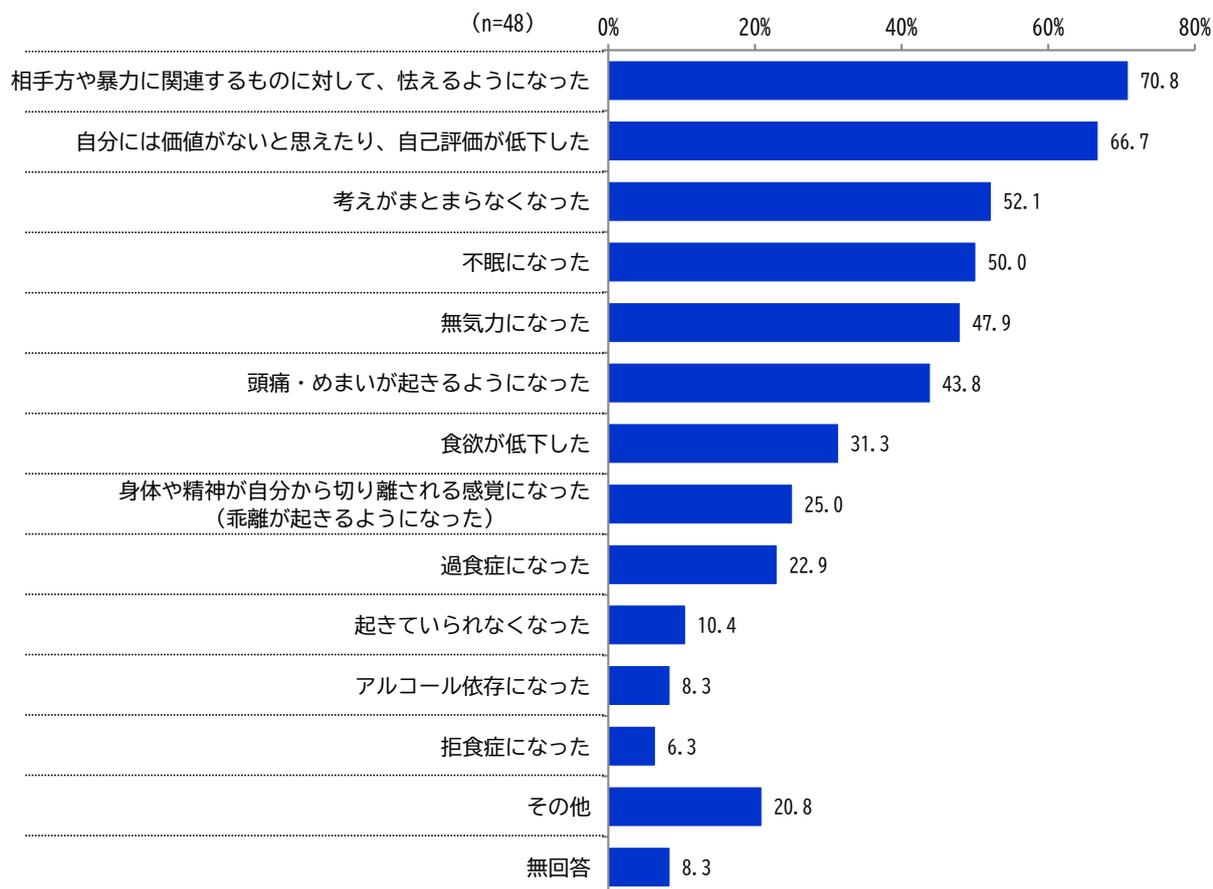
現在、心理的ケア（カウンセリングなど）を受けているかについて聞いたところ、「受けていない」が39人（63.9%）、「受けている」が18人（29.5%）となっています。



ご自身が受けた暴力の影響によって、ご自身が経験したものの

【DV被害者】（報告書 15 ページ 問 13）

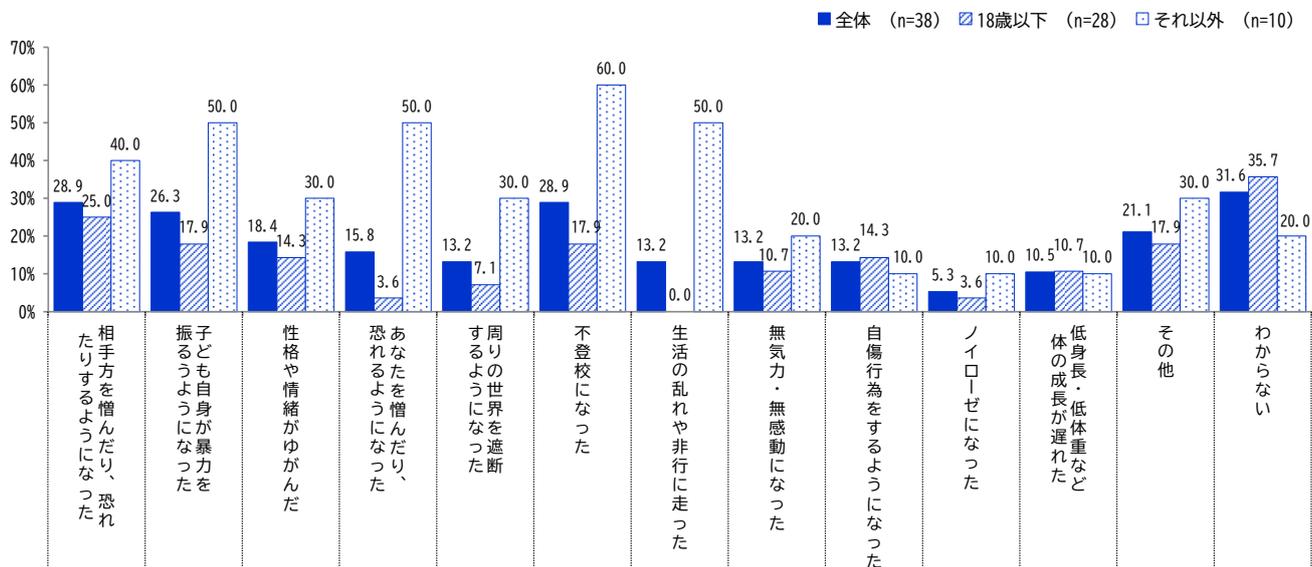
ご自身が受けた暴力の影響によって、ご自身が経験したものについて複数回答で聞いたところ、「相手方や暴力に関連するものに対して、怯えるようになった」が 34 人（70.8%）で最も多く、次いで「自分には価値がないと思えたり、自己評価が低下した」が 32 人（66.7%）、「考えがまとまらなくなった」が 25 人（52.1%）となっています。



暴力のある環境で育ったお子さんに見られた影響

【DV被害者】（報告書 16 ページ 問 14）

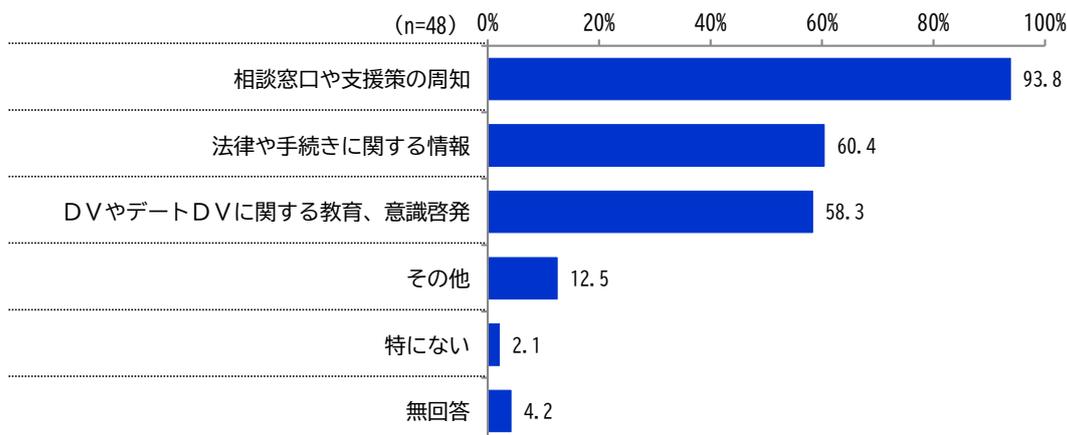
お子さんをお持ちと答えた人 38 人に、暴力のある環境で育ったお子さんに見られた影響について複数回答で聞いたところ、「わからない」を除くと、「相手方を憎んだり、恐れたりするようになった」「不登校になった」が 11 人（28.9%）で最も多く、次いで「子ども自身が暴力を振るうようになった」が 10 人（26.3%）となっています。



初めて暴力を受けた人が速やかに自分を守ったり、必要な支援につながるための必要な支援

【DV被害者】（報告書 21 ページ 問 19）

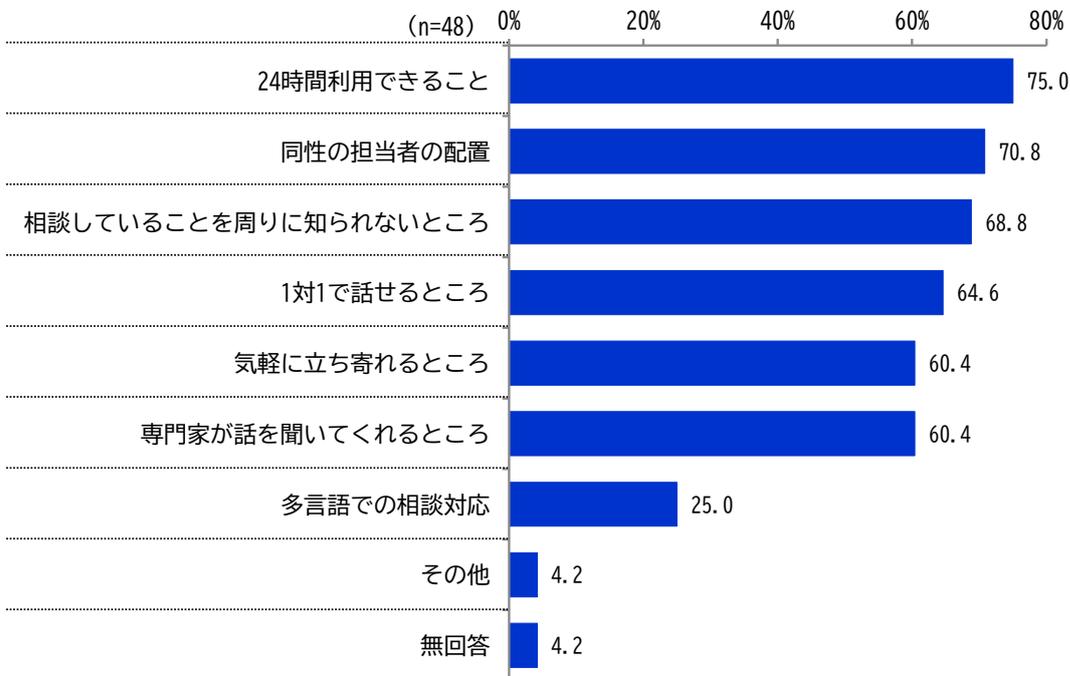
初めて暴力を受けた人が速やかに自分を守ったり、必要な支援につながるための必要な支援について複数回答で聞いたところ、「相談窓口や支援策の周知」が 45 人（93.8%）で最も多く、次いで「法律や手続きに関する情報」が 29 人（60.4%）、「DVやデートDVに関する教育、意識啓発」が 28 人（58.3%）となっています。



配偶者からの暴力（DV）被害を相談しやすくするための相談体制に必要なと思うもの

【DV被害者】（報告書 28 ページ 問 24）

配偶者からの暴力（DV）被害を相談しやすくするための相談体制で、ご自身が必要だと思うものについて複数回答で聞いたところ、「24時間利用できること」が36人（75.0%）で最も多く、次いで「同性の担当者の配置」が34人（70.8%）、「相談していることを周りに知られないところ」が33人（68.8%）となっています。

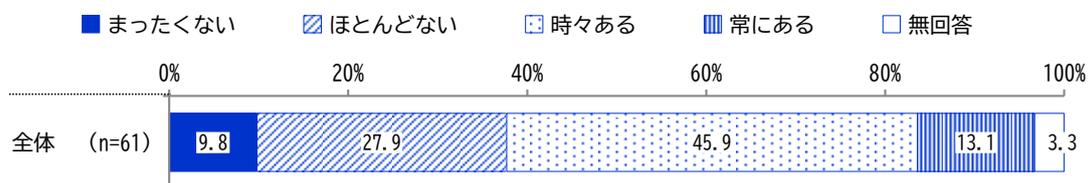


自分が他の人達から孤立していると感じることの有無

【困難な問題を抱える女性】（報告書 36 ページ 問 12）

自分が他の人達から孤立していると感じることについて聞いたところ、「時々ある」が28人（45.9%）で最も多く、次いで「ほとんどない」が17人（27.9%）、「常にある」が8人（13.1%）となっています。

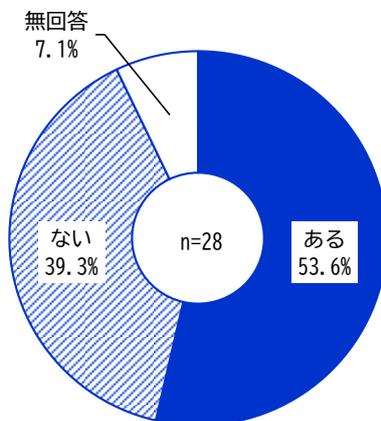
また、「時々ある」と「常にある」をあわせた“感じることもある”が36人（59.0%）で約6割が孤立していると感じています。



家族や配偶者と暮らしている自宅に居場所がないと感じたり、家族の問題行動などで負担を感じた経験

【困難な問題を抱える女性】（報告書 43 ページ 問 18-1）

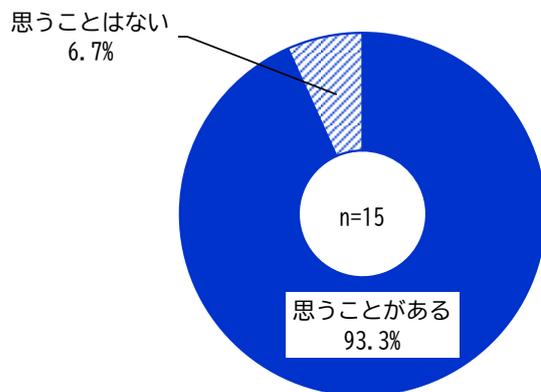
この一年の間に、家族や配偶者と暮らしている期間が『ある』と答えた人 28 人に家族や配偶者と暮らしている自宅に居場所がないと感じたり、家族の問題行動などで負担を感じた経験について聞いたところ、「ある」が 15 人（53.6%）、「ない」が 11 人（39.3%）となっています。



家庭問題があるとき、自宅に帰れない・帰りたくないと思うことの有無

【困難な問題を抱える女性】（報告書 44 ページ 問 18-3）

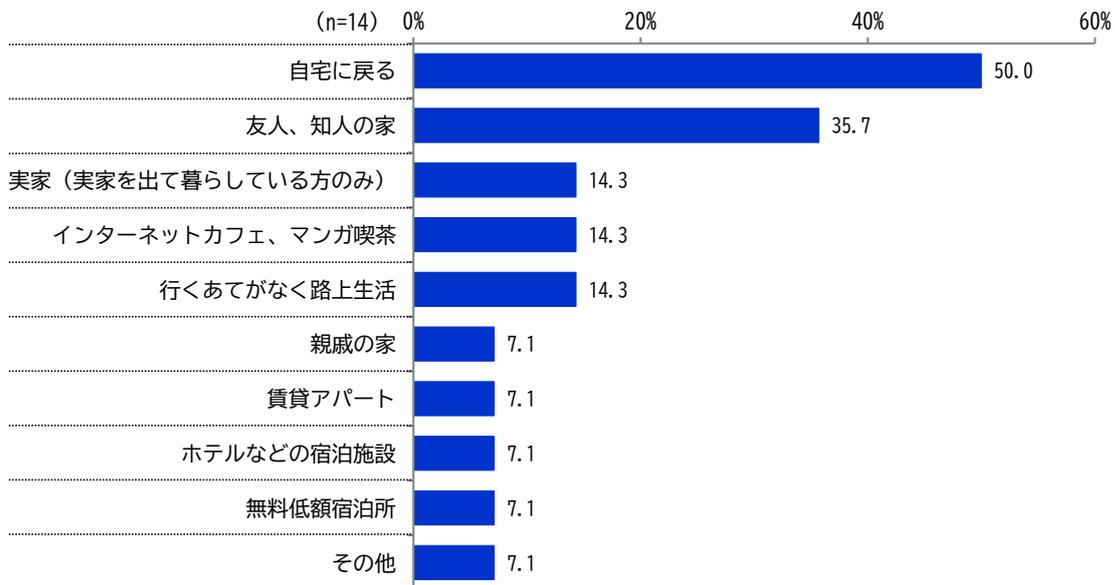
家族や配偶者と暮らしている自宅に居場所がないと感じたり、家族の問題行動などで負担を感じた経験が『ある』と答えた人 15 人に自宅に帰れない・帰りたくないと思うかどうかについて聞いたところ、「思うことがある」が 14 人（93.3%）、「思うことはない」が 1 人（6.7%）となっています。



自宅に帰れない・帰りたくないときに行くところ

【困難な問題を抱える女性】（報告書 45 ページ 問 18-4）

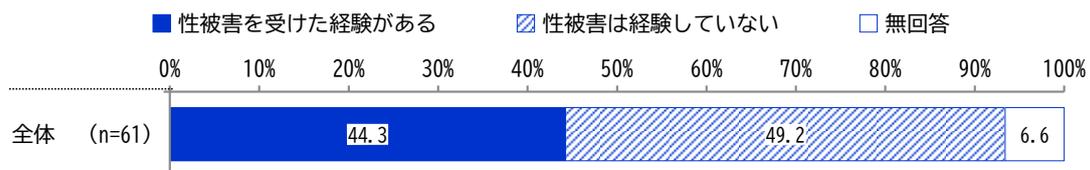
自宅に帰れない・帰りたくないと『思うことがある』と答えた人 14 人に自宅に帰れない・帰りたくないときに、どのようなところに行くかについて複数回答で聞いたところ、「自宅に戻る」が 7 人（50.0%）で最も多く、次いで「友人、知人の家」が 5 人（35.7%）、「実家（実家を出て暮らしている方のみ）」「インターネットカフェ、マンガ喫茶」「行くあてがなく路上生活」がともに 2 人（14.3%）となっています。



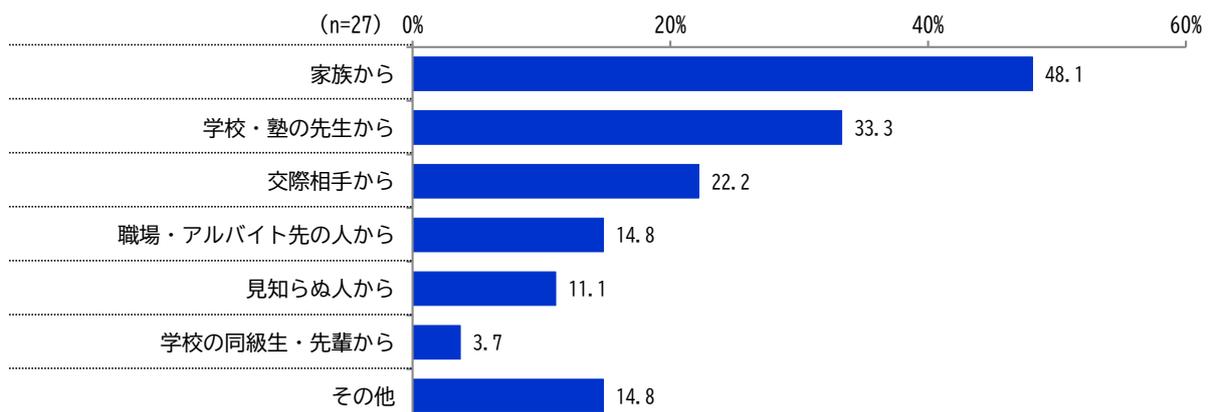
性被害を受けた経験

【困難な問題を抱える女性】（報告書 46 ページ 問 19）

性被害を受けた経験について聞いたところ、「性被害を受けた経験がある」は 27 人（44.3%）、「性被害は経験していない」は 30 人（49.2%）となっています。



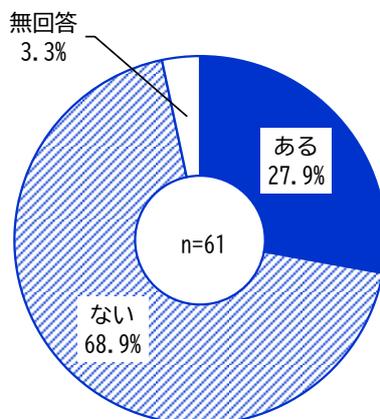
『性被害を受けた経験がある』と答えた人 27 人に性被害を受けた相手について聞いたところ、「家族から」が 13 人（48.1%）で最も多く、次いで「学校・塾の先生から」が 9 人（33.3%）、「交際相手から」が 6 人（22.2%）となっています。



予期せぬ妊娠の経験

【困難な問題を抱える女性】（報告書 47 ページ 問 20）

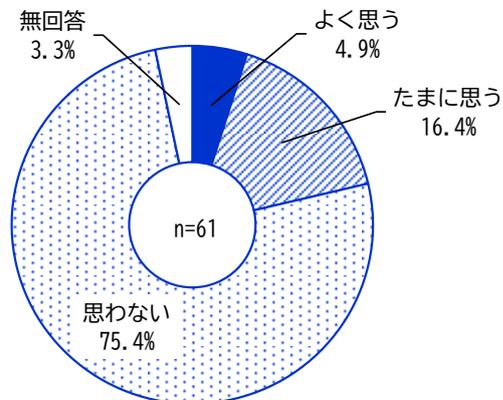
予期せぬ妊娠の経験について聞いたところ、「ない」が 42 人（68.9%）、「ある」が 17 人（27.9%）となっています。



オーバードーズやリストカットをしようと思うことの有無

【困難な問題を抱える女性】（報告書 47 ページ 問 21）

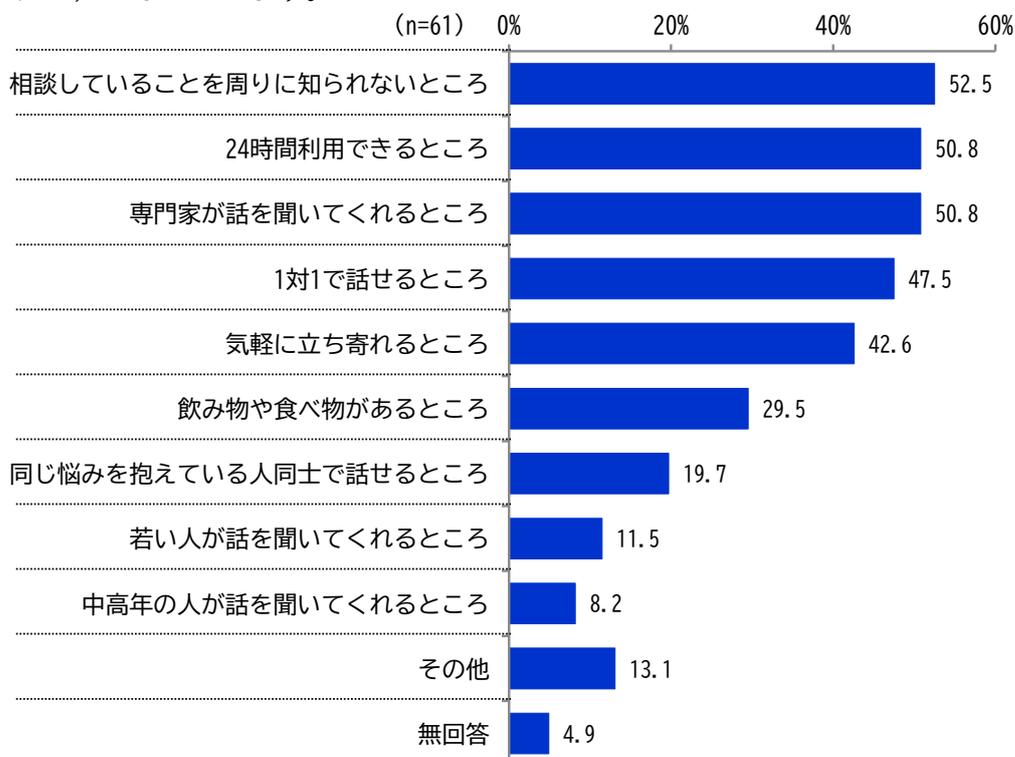
オーバードーズやリストカットをしようと思うかどうかについて聞いたところ、「思わない」が 46 人（75.4%）で最も多く、次いで「たまに思う」が 10 人（16.4%）、「よく思う」が 3 人（4.9%）となっています。



様々な問題や困りごとを相談するならどのようなところが良いか

【困難な問題を抱える女性】（報告書 50 ページ 問 23）

様々な問題や困りごとを相談するならどのようなところが良いかについて複数回答で聞いたところ、「相談していることを周りに知られないところ」が32人（52.5%）で最も多く、次いで「24時間利用できるところ」「専門家が話を聞いてくれるところ」が31人（50.8%）、「1対1で話せるところ」が29人（47.5%）となっています。

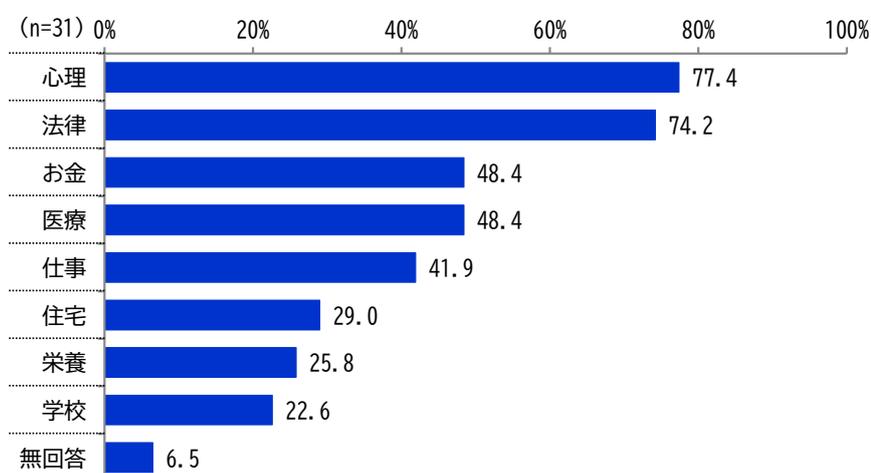


「専門家が話を聞いてくれる」と回答した人

相談したい専門家の専門分野

【困難な問題を抱える女性】（報告書 51 ページ 問 23-1）

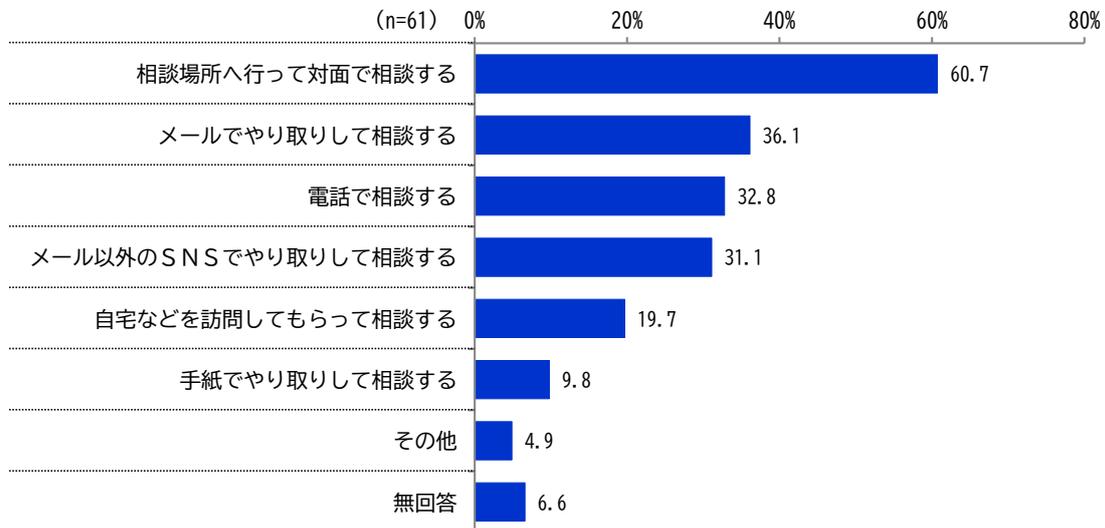
様々な問題や困りごとの相談先の希望で『専門家が話を聞いてくれる』と答えた人31人に、専門分野について複数回答で聞いたところ、「心理」が24人（77.4%）で最も多く、次いで「法律」が23人（74.2%）、「お金」「医療」が15人（48.4%）となっています。



希望する相談方法

【困難な問題を抱える女性】（報告書 52 ページ 問 24）

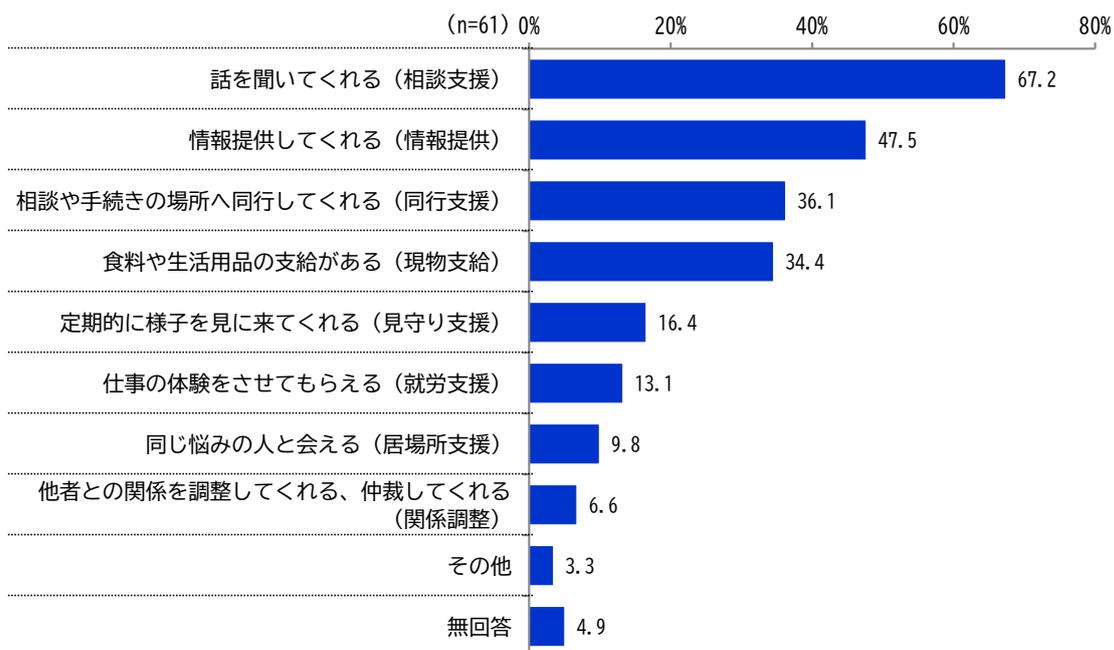
希望する相談方法について複数回答で聞いたところ、「相談場所へ行って対面で相談する」が 37 人（60.7%）で最も多く、次いで「メールでやり取りして相談する」が 22 人（36.1%）、「電話で相談する」が 20 人（32.8%）となっています。



希望する相談・支援の方法

【困難な問題を抱える女性】（報告書 53 ページ 問 25）

希望する相談・支援の方法について複数回答で聞いたところ、「話を聞いてくれる（相談支援）」が 41 人（67.2%）で最も多く、次いで「情報提供してくれる（情報提供）」が 29 人（47.5%）、「相談や手続きの場所へ同行してくれる（同行支援）」が 22 人（36.1%）となっています。



Ⅱ インターネット調査

1 インターネット調査の概要

1) 調査の目的

アンケート調査は、支援関係機関等の支援を受けたことがあるDV被害者や困難な問題を抱える女性を対象に実施しましたが、支援関係機関等につながっていないDV被害者や困難な問題を抱える女性の課題やニーズについても把握するために、インターネットを活用して、スクリーニングにより名古屋市域在住の18歳以上の女性を対象に、調査を実施しました。

2) 調査対象及び調査方法

調査対象	名古屋市在住でインターネットモニターに登録する18歳以上の女性のうち、スクリーニングによりDV被害などの困難な問題で困ったり悩みを抱えた経験のある人 500人 割付 18歳～39歳：250人、40歳以上：250人
調査期間	令和6年12月13日～令和6年12月23日
調査方法	インターネット調査（WEBによるモニター調査）

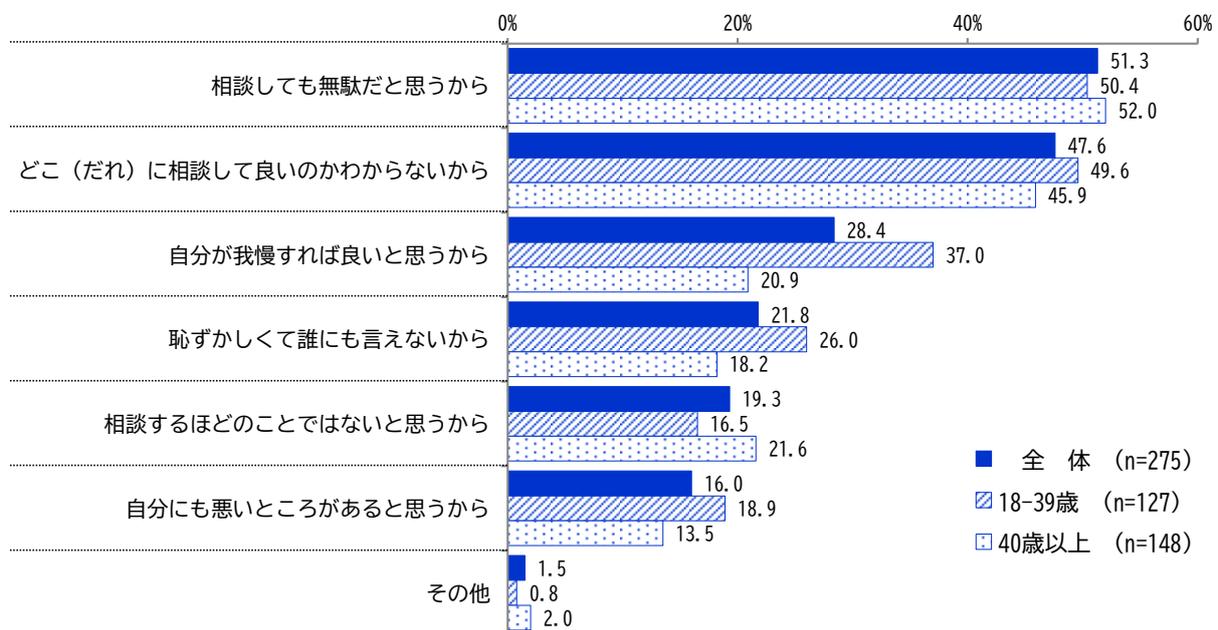
2 インターネット調査結果

悩みを抱えたときに相談しない理由（報告書 115 ページ）

悩みを抱えたときに『相談しなかった』と答えた人 275 人に相談しない理由を複数回答で聞いたところ、「相談しても無駄だと思うから」が 141 人（51.3%）で最も多く、次いで「どこ（だれ）に相談して良いのかわからない」が 131 人（47.6%）、「自分が我慢すれば良いと思うから」が 78 人（28.4%）となっています。

年齢別でみると、18-39 歳の 127 人では「相談しても無駄だと思うから」が 64 人（50.4%）で最も多く、次いで「どこ（だれ）に相談して良いのかわからないから」が 63 人（49.6%）、「自分が我慢すれば良いと思うから」が 47 人（37.0%）となっています。

40 歳以上の 148 人では「相談しても無駄だと思うから」が 77 人（52.0%）で最も多く、次いで「どこ（だれ）に相談して良いのかわからないから」が 68 人（45.9%）、「相談するほどのことではないと思うから」が 32 人（21.6%）となっています。

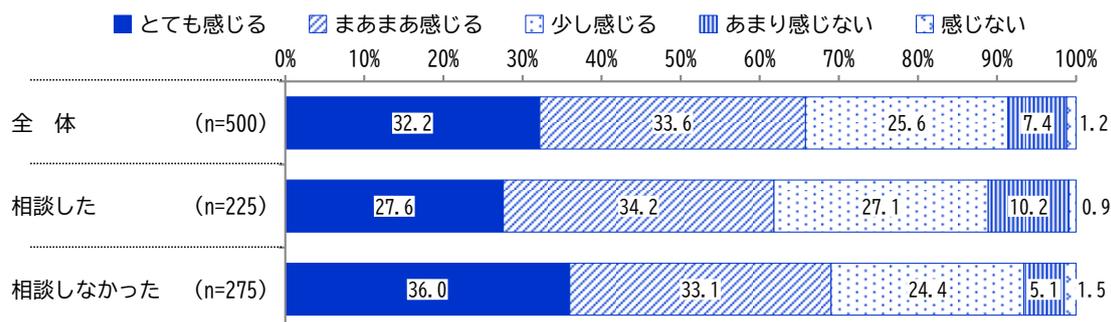


現在のストレスや生きづらさ（報告書 117 ページ）

現在のストレスや生きづらさについて聞いたところ、「まあまあ感じる」が 168 人（33.6%）で最も多く、次いで「とても感じる」が 161 人（32.2%）、「少し感じる」が 128 人（25.6%）となっています。

悩みを抱えたときの相談の有無別で見ると、相談した人 225 人では「まあまあ感じる」が 77 人（34.2%）で最も多く、次いで「とても感じる」が 62 人（27.6%）、「少し感じる」が 61 人（27.1%）となっています。

相談しなかった人 275 人では「とても感じる」が 99 人（36.0%）で最も多く、次いで「まあまあ感じる」が 91 人（33.1%）、「少し感じる」が 67 人（24.4%）となっています。

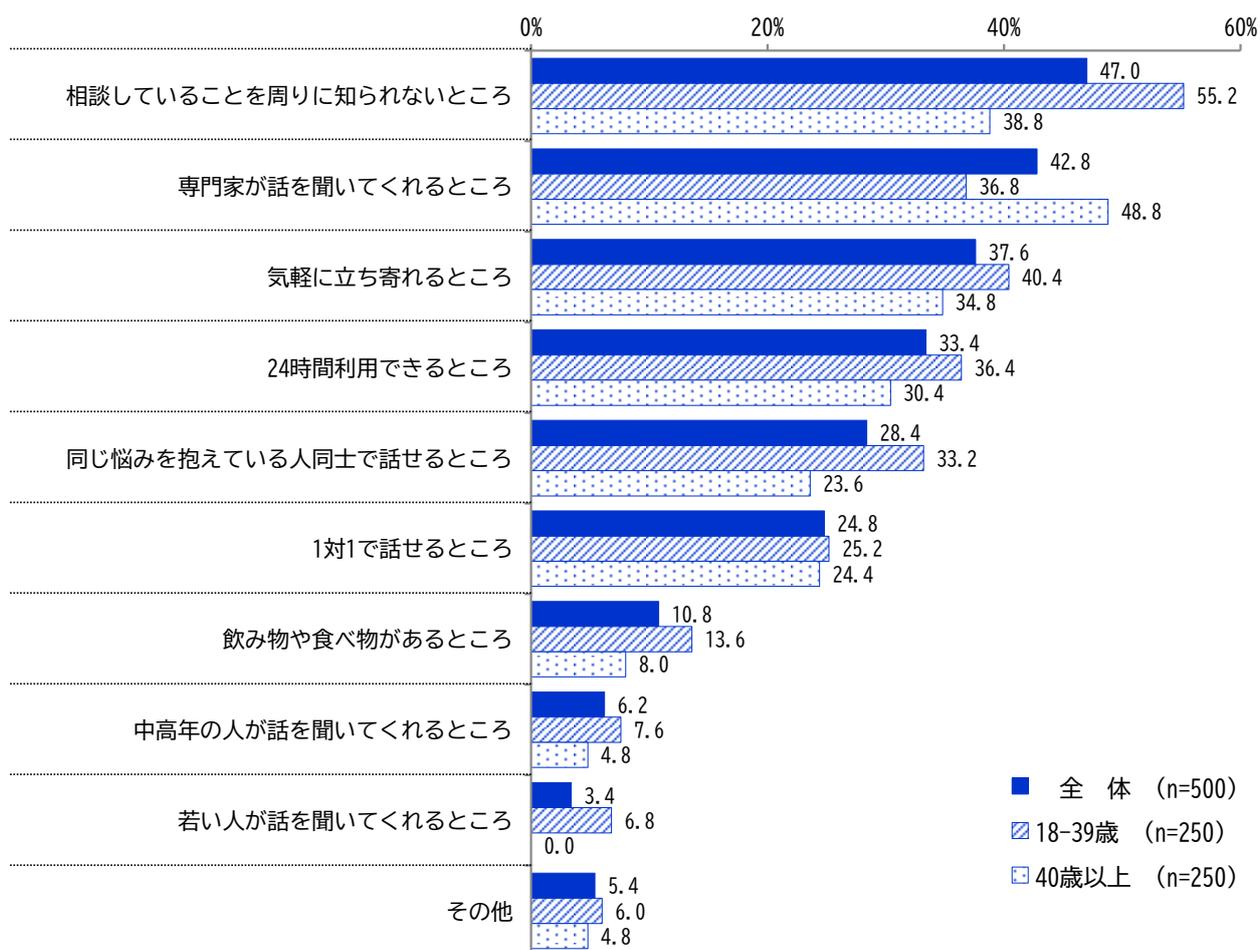


様々な問題や困りごとを相談するならどのようなところがよいか（報告書 118 ページ）

相談するならどのようなところがよいか複数回答で聞いたところ、「相談していることを周りに知られないところ」が235人（47.0%）で最も多く、次いで「専門家が話を聞いてくれるところ」が214人（42.8%）、「気軽に立ち寄れるところ」が188人（37.6%）となっています。

年齢別で見ると、18-39歳の250人では「相談していることを周りに知られないところ」が138人（55.2%）で最も多く、次いで「気軽に立ち寄れるところ」が101人（40.4%）、「専門家が話を聞いてくれるところ」が92人（36.8%）となっています。

40歳以上の250人では「専門家が話を聞いてくれるところ」が122人（48.8%）で最も多く、次いで「相談していることを周りに知られないところ」が97人（38.8%）、「気軽に立ち寄れるところ」が87人（34.8%）となっています。

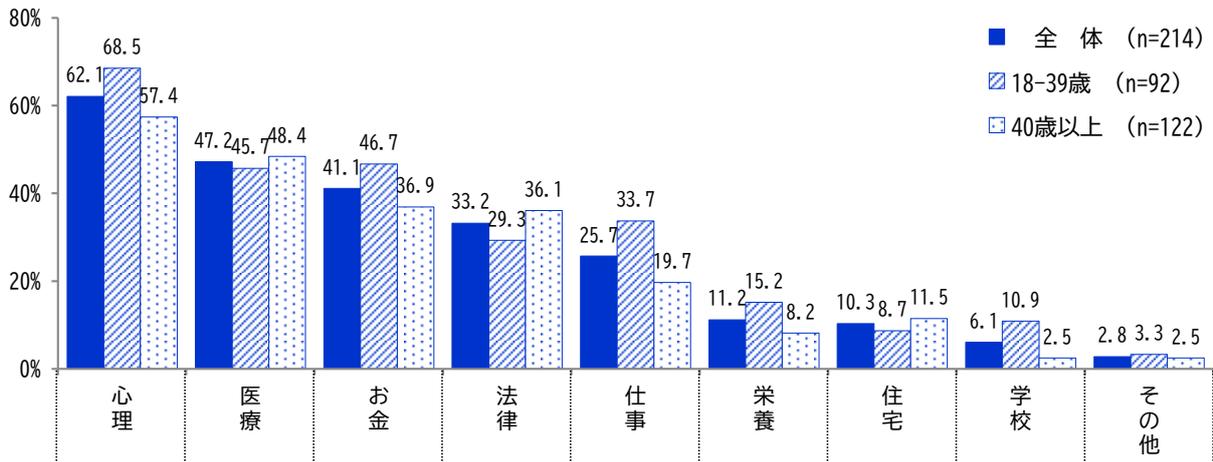


相談したい専門家の専門分野（報告書 119 ページ）

様々な問題や困りごとの相談先で『専門家が話を聞いてくれるところ』と答えた人 214 人に、専門分野について複数回答で聞いたところ、「心理」が 133 人（62.1%）で最も多く、次いで「医療」が 101 人（47.2%）、「お金」が 88 人（41.1%）となっています。

年齢別で見ると、18-39 歳の 92 人では「心理」が 63 人（68.5%）で最も多く、次いで「お金」が 43 人（46.7%）、「医療」が 42 人（45.7%）となっています。

40 歳以上の 122 人では「心理」が 70 人（57.4%）で最も多く、次いで「医療」が 59 人（48.4%）、「お金」が 45 人（36.9%）となっています。

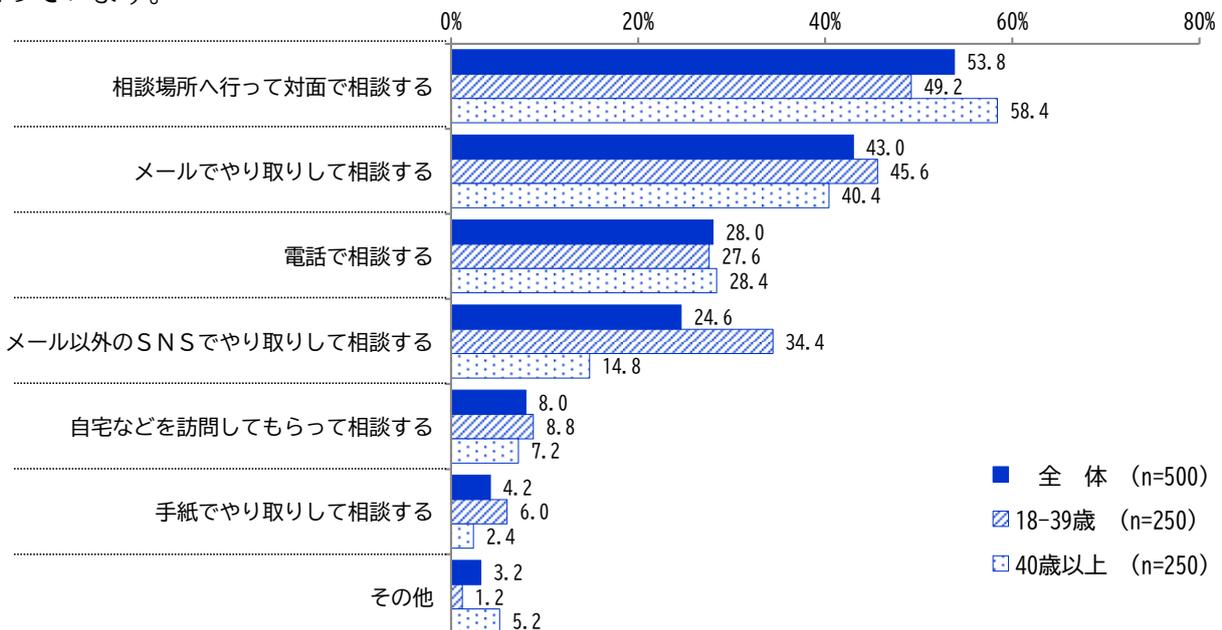


希望する相談方法（報告書 121 ページ）

希望する相談方法について複数回答で聞いたところ、「相談場所へ行って対面で相談する」が 269 人（53.8%）で最も多く、次いで「メールでやり取りして相談する」が 215 人（43.0%）、「電話で相談する」が 140 人（28.0%）となっています。

年齢別で見ると、18-39 歳の 250 人では「相談場所へ行って対面で相談する」が 123 人（49.2%）で最も多く、次いで「メールでやり取りして相談する」が 114 人（45.6%）、「メール以外の SNS でやり取りして相談する」が 86 人（34.4%）となっています。

40 歳以上の 250 人では「相談場所へ行って対面で相談する」が 146 人（58.4%）で最も多く、次いで「メールでやり取りして相談する」が 101 人（40.4%）、「電話で相談する」が 71 人（28.4%）となっています。

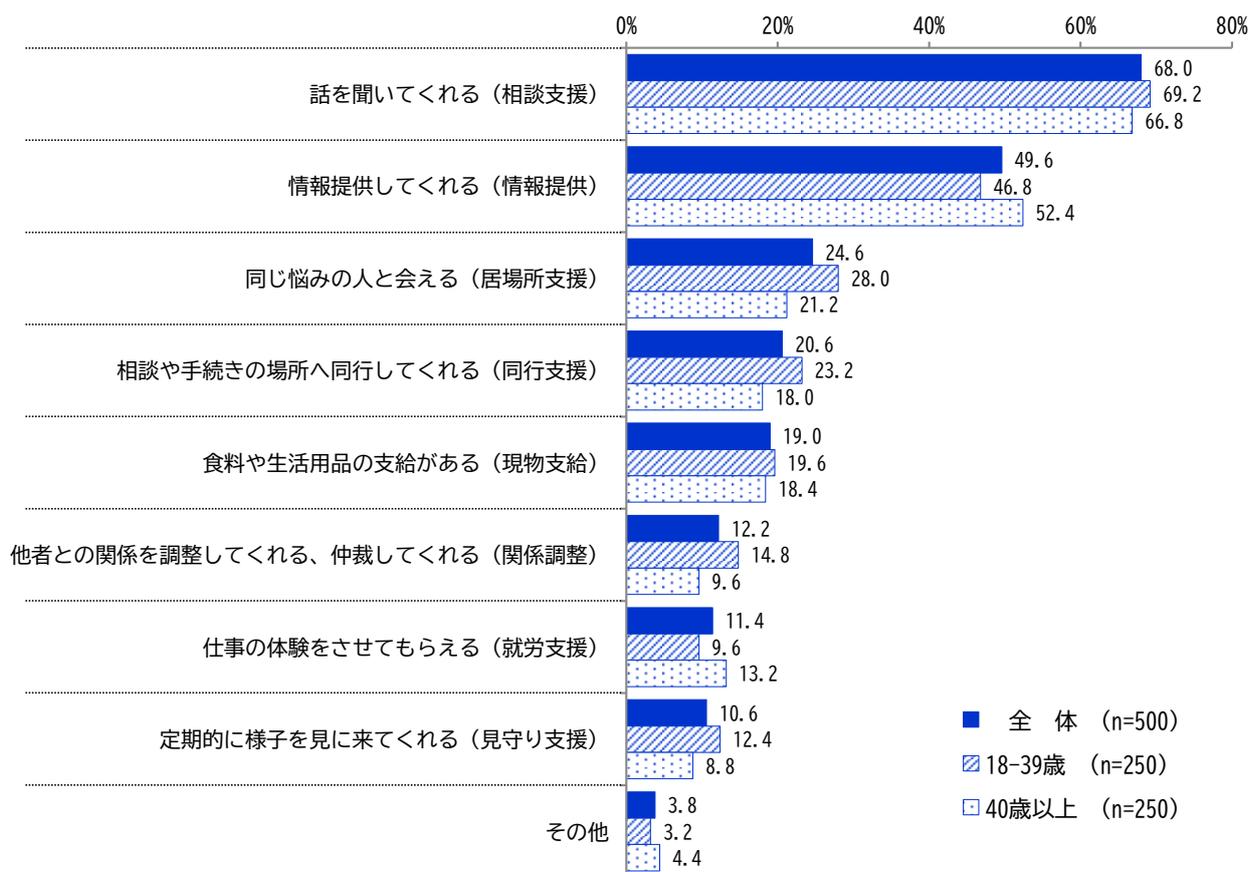


希望する相談・支援の方法（報告書 123 ページ）

希望する相談・支援の方法を複数回答で聞いたところ、「話を聞いてくれる（相談支援）」が340人（68.0%）で最も多く、次いで「情報提供してくれる（情報提供）」が248人（49.6%）、「同じ悩みの人と会える（居場所支援）」が123人（24.6%）となっています。

年齢別でみると、18-39歳では「話を聞いてくれる（相談支援）」が173人（69.2%）で最も多く、次いで「情報提供してくれる（情報提供）」が117人（46.8%）、「同じ悩みの人と会える（居場所支援）」が70人（28.0%）となっています。

40歳以上では「話を聞いてくれる（相談支援）」が167人（66.8%）で最も多く、次いで「情報提供してくれる（情報提供）」が131人（52.4%）、「同じ悩みの人と会える（居場所支援）」が53人（21.2%）となっています。



Ⅲ その他

支援関係機関等へのアンケート調査は、「支援するうえでの困っていることや難しいこと」、「今後必要と思われる取組」、「関係機関相互の連携における課題」等について聞きました。

調査結果において、調査先が特定されるような情報や具体的なケース・支援内容に関する情報等は掲載していません。それ以外の公表可能な結果は公表しています。

また、ヒアリング調査については、DV被害者や困難な問題を抱える女性が置かれていた状況の把握や今後の支援策を検討するため、具体的に被害状況や困難な問題の状況、現在の困りごと、求める支援等について聞きました。

1 ヒアリング調査の概要

1) 調査の目的

アンケート調査から得られたDV被害者や困難な問題を抱える女性、支援関係機関等の課題やニーズをさらに詳しく把握するために、アンケート調査の結果を基にヒアリング調査を実施しました。

2) 調査対象及び調査方法

調査対象	アンケート調査に協力いただいたDV被害者のうち、ヒアリング調査への協力をいただいた人	アンケート調査に協力いただいた困難な問題を抱える女性のうち、ヒアリング調査への協力をいただいた人	アンケート調査に協力いただいた支援関係機関等のうち、ヒアリング調査への協力をいただいた支援関係機関等
調査期間	令和6年12月10日 ～令和7年1月31日	令和6年12月10日 ～令和7年1月31日	令和6年11月11日 ～令和7年1月31日
調査方法	対面による聞き取り方式	対面による聞き取り方式	対面による聞き取り方式 (一部はヒアリングシート送付、電子ファイル回答方式)

3) 調査における配慮

DV被害者及び困難な問題を抱える女性へのヒアリング調査は、ヒアリングを実施したことによる対象者への二次被害防止やフラッシュバック等心理面に配慮するため、面談・聞き取りは、トラウマケアに理解と実践経験のある臨床心理士が行いました。

4) 調査の実施状況

種別	実施数
DV被害者	11
困難な問題を抱える女性	6
支援関係機関等	43 (内、電子ファイル回答2)

なお、公表用報告書に掲載している各事例は、そのままの実例ではなく、聞き取った内容の趣旨を損なわないよう配慮しながら個人や支援関係機関等が特定されないよう複数の事例を組み合わせるなどして加工しています。

また、支援関係機関等へのヒアリング調査については、DV被害者や困難な問題を抱える女性への今後の支援策を検討するため、具体的に、支援者の立場での現在の状況や、今後必要な取組等について聞きました。

名古屋市配偶者からの暴力（DV）被害者及び
困難な問題を抱える女性に関する調査報告書
【概要版】

発行日 令和7（2025）年3月

発行 名古屋市子ども青少年局子育て支援部子ども福祉課（女性福祉担当）
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話 052-972-2519

この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。